

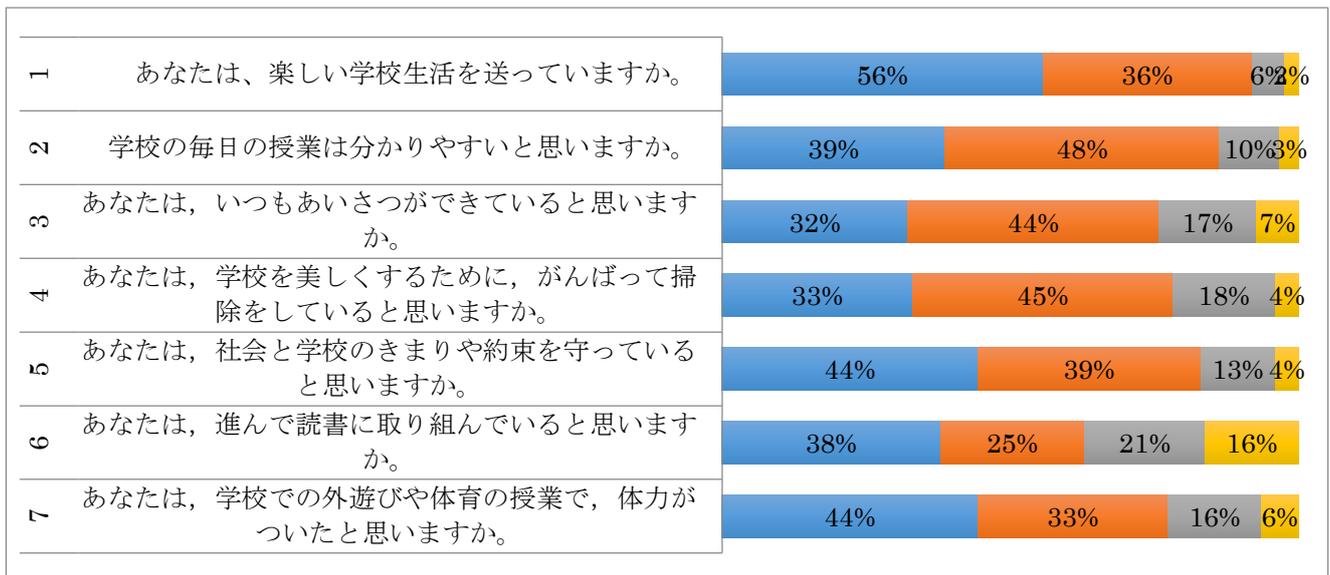
令和4（2022）年度「学校評価」アンケート結果について（総括）

学校評価は、子どもたちがよりよい教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組である。今年度の学校評価については、前年度までと同様の内容で実施した。昨年度までの結果と比較・検討するためにも同じ項目であることは有効であり、また、学校教育目標である「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましい心身」が達成されたかどうかを検証する材料としても適切であると判断したためである。

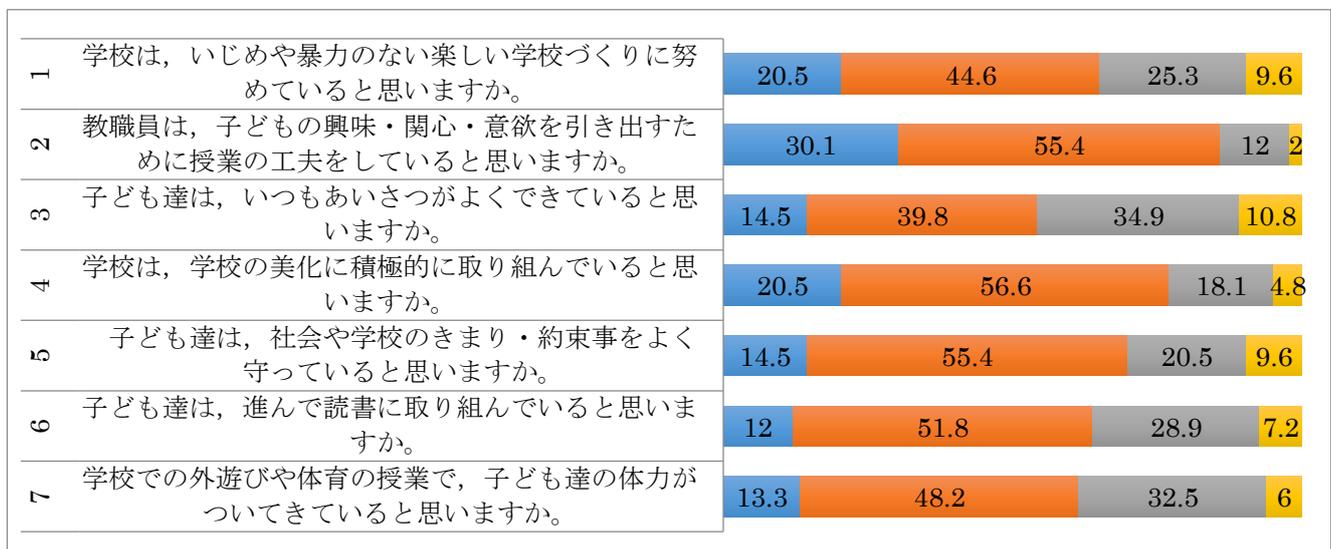
各項目とも、昨年度に比べると肯定的な回答(系列1, 2)は、児童・保護者・教職員ともに減少傾向にある。今年度は、感染対策を行いながらの学校生活も3年目となる中、水泳のように実施できる学習や行事などが増えてきた。そんな中今年度の学校評価アンケートは、コロナ禍の学校生活やアフターコロナとなる来年度に向けての課題を多く見つけることができるアンケートとなった。

分析・検討した結果を教職員に周知するとともに、学校だより等で保護者に知らせ、今後のよりよい学校づくりや、教職員の指導力向上に生かしていきたい。

令和4（2022）年度児童アンケート集計



令和4（2022）年度保護者アンケート集計



令和4（2022）年度教職員アンケート集計

1	本校は、いじめや暴力のない楽しい学校だと思いますか。	35.7	42.9	21.4	0
2	児童は、毎日の授業が楽しい、或いは分かりやすいと感じていると思いますか。	21.4	78.6	0	0
3	児童は、あいさつをよくしていると思いますか。	42.9	42.9	7.1	7.1
4	児童は、学校の環境美化に積極的に取り組んでいると思いますか。	21.4	50	28.6	0
5	児童は、学校のきまりや約束を守って生活していると思いますか。	0	57.1	42.9	0
6	児童は、進んで読書に取り組んでいると思いますか。	35.7	35.7	28.6	0
7	児童は、学校での外遊びや体育の授業で、体力がついたと思いますか。	28.6	42.9	28.6	0

アンケートは、児童用、保護者用、教職員用、いずれも4件法で実施

左から……そう思う …ややそう思う …あまりそう思わない …そう思わない

【設問1】 「いじめや暴力のない楽しい学級・学校づくり」について

児童の肯定的な回答は、昨年度90%に対し今年度92%と2ポイント増加している。運動会をはじめ今年度実施できる学習内容・行事が増えたこともあり、肯定的な回答が多数を占めている。一方、保護者の肯定的な回答は昨年度85%から今年度64%と減少、教職員も昨年度100%から78%に減少している。

児童と保護者・教職員の回答の差をしっかりと考えていかないといけない。個々の児童の視点だけでなく、クラス・学年・学校全体として今年度どうだったのか振り返ることが重要である。落ち着きのない場面など教職員が気になる場面が多くあった。学級や学校は、児童にとって安全・安心できる場であり、また、楽しく過ごせる場でなければならない。児童や保護者、教職員のつながりがともすれば希薄になる中、学校としてできることを模索し一人一人の不安な気持ちに真摯に寄り添うことにもう一度立ち戻り子どもたちと向き合っていくことが必要である。また、保護者と連携協力し、研修を積み重ねていき、今後も、授業の充実、人権教育、道徳教育や生徒指導の日々の積み重ねを意識し、児童の内面に迫る指導を行い、また集団に対する指導もきめ細かく行うことが、児童が明るい気持ちで登校し、安心して学習に取り組み、笑顔いっぱい学校生活が過ごせることにつながるであろう。「日々の授業・人権・道徳・生徒指導」を重視しながら児童の豊かな心を育ていけるよう、教職員は日々研鑽しなければならない。

【設問2】 「授業のわかりやすさ」について

児童の肯定的な回答は、昨年度93%に対し今年度87%、保護者の肯定的な回答は、昨年度90%今年度86%とおよそ9割の児童・保護者から肯定的な回答を得ている。教職員の肯定的な回答は、昨年度100%に対し今年度は99%になっている。

今年度も、児童一人一人の基礎・基本のさらなる定着を目指し、研究主題「主体的に学び、考え、表現する子どもの育成」の実現を目指して取組を進めてきた。教職員は、児童一人一人の学習状況を注視し、児童により分かりやすい学習が提示できるよう教材研究に取り組み、熱心に授業の事前準備などに取り組んでいた。さらに、タブレット端末の導入に伴い、児童の興味・関心を伴う授業をより多く展開することができるようになった。児童も、タブレット端末を活用しながら、他の児童と考えを交流し一緒に学ぶなど学習の幅が広がってきた。学ぶことの楽しさが、さらに増してきたようである。実際、学習アンケートでも、多くの児童が、タブレット端末を活用することで、学習に対する意欲や授業に対する理解度が増したと答えている。今後も、授業を工夫し、より一層児童の学力向上に努め、教職員自身の研鑽を積み重ねていくことが大切である。

【設問3】 「あいさつ」について

今年度は、過去2年間に比べると大きな声であいさつができるような状況が見られた。児童の生活目標にもあいさつに取り組むことが盛り込まれており、日頃から意識して取り組んでいる。また、運営委員会が中心となり、全委員会であいさつ運動に取り組んだり、朝の放送で「あいさつは魔法の力」の歌を流したりして、あいさつの素晴らしさや大切さについて意識できるように日々取り組んでいる。しかし、児童では、「あいさつをよくする」の肯定的評価は、3年間で、77.1%、72%、76%とほぼ横ばいである。保護者の評価も、65%、66%、54%と、今年度は肯定的な回答は減少している。教職員の評価は、67%、72%、85%になっており増加している。全体的には「あいさつ」に関しては、肯定的な回答は低いと捉えている。

今年度も、感染症予防対策のためにマスクをし、学校生活を送る中、声を出してあいさつを進んでするという習慣や気持ちが薄くなってきているように思われる。また、顔の表情がマスクに隠れているために、相手がどんな気持ちなのか表情も読み取りにくい。しかし、来年度からは、大きく感染対策が変わってくる。校内でのあいさつを意識するだけでなく、登下校時の「あいさつ」や地域の方への「あいさつ」、返事などの受け答えなどに関しても互いの心の距離を締め絆を確かめることを大切にして指導していく必要がある。

あいさつは、よりよい人間関係を築くための第一歩であり、コミュニケーションづくりの基本である。誰もが当たり前、まず教職員が見本となり示していかなければならない。学校、家庭、地域のどの場でも笑顔で気持ちのよいあいさつができるように、各クラスでの指導の強化、家庭との連携の強化、教職員による働きかけや、児童会によるあいさつ運動を続け、より充実したものにならなければならない。あいさつが心を通わせる第一歩であることを認識して取り組んでいきたい。

【設問4】 「校内の美化」について

校内美化である「そうじ」の設問に対しては、児童の肯定的な回答は、昨年度81%に対し今年度78%と3ポイント減少している。保護者の肯定的な回答は、昨年度82%今年度76%と6ポイント減少している。教職員の肯定的な回答は、昨年度86%に対し今年度は71%と、15ポイントの減少となっている。

児童は、忍海小学校の学び舎に愛着をもって学校の美化に励んでいる。今年度は、昨年度に比べぞうきんを使用など少しずつ以前の掃除に戻ってきている。しかし、感染症予防対策のため、掃除の時間も短縮したままである。そのため、掃除の方法をもう一度児童に指導していく必要を感じている。限られた時間の中でも、気持ちを込めて熱心に取り組んでいる児童の姿も見られる。今後も、感染症予防対策を行い、児童の安全を考えながら、児童の校内美化への意識を高め美しい学校づくりを目指していきたい。

【設問5】 「きまりや約束を守る規範意識」について

きまりを守る規範意識に関して、児童の肯定的評価は、昨年度85%に対し今年度は83%と大きな変化は見られない。保護者の肯定的評価は昨年度の88%から今年度は70%と18ポイント減少している。また、教職員の肯定的評価は、一昨年度92%、昨年度76%から今年度は56%と2年間で大きく減少している。設問1と同様に児童と保護者・教職員で意識の差が大きくなっている。保護者・教職員がしっかりときまりや約束を守っているなど規範意識が低くなっていると感じていることの要因を考えていく必要がある。

学校生活において「廊下は右側を静かに歩く」「チャイムを守り行動する」「忘れ物をしない」「交通ルールを守る」「タブレット端末を正しく使用する」等、児童にとって守るべき項目は多岐に渡るが、これらのことを日々意識させ、実践させていくことが、規範意識を高めることの基礎・基本となる。感染症対策の中の3年間で児童が我慢してきたこと、反対にできることが増えてくることを考え、教職員もそのことをしっかりと認識し、児童の心にどの場面でも高い規範意識が育つよう、そして学校生活のみならず家庭・地域での生活においても実践できるよう、今後も家庭と連携しながら心の育成に努めなければならない。児童の回答に対して、保護者・教職員ができていないと感じる部分をしっかりと指導していく必要がある。

さらに、みんなが生活しやすいように、きまりや約束を守ることの大切さを、教職員は常に意識

し、日々児童に伝えていく必要がある。他律的ではなく自律的な規範意識を育てていくことが大切である。

【設問6】 「自ら進んでする読書」について

読書を楽しむ心の滋養も本校の重点課題の一つである。児童と保護者の肯定的な回答は、昨年度と同じで63%、一方、教職員の肯定的な回答は、昨年度は96%で今年度は70%と減少している。

校内においては、朝の読書や読書の時間等でも熱心に読む姿が見られ、数多くの児童が読書に親しんでおり、児童の様子を見ても読書は好きである。読書カードも充実させ、読書の達成状況が児童にも分かり意欲も増すよう様々な手立てを行っている。また、図書館便り等を使って、読書時間を家庭でも確保する工夫についても発信している。しかし、今年度も、感染症予防対策のために、休み時間の図書室の利用ができなかったり、貸し出した図書の本を家庭に持ち帰ることができなかったりと、例年のように家庭での読書時間が増加しないことが要因の一つと考えられる。

今後は、学校だけでなく、タブレット端末を使って電子図書の活用等、家庭でも様々な形で読書に親しめる工夫を考え、読書の有効性などを発信し読書を推進していきたい。さらに、図書委員会による啓発活動をさらに充実させ、より読書に親しむことのできる児童の育成に努めたい。また、学習活動においても図書の資料の活用を進め、多くの種類の本に触れることで読書の楽しさを味わわせていきたい。

【設問7】 「遊びや授業を通じての体力強化」について

体力がついたと肯定的に答えた児童は、昨年度は71%、今年度は77%で6ポイント増加している。また、保護者の肯定的な回答は、昨年度57%、今年度61%で4ポイント増加している。教職員の肯定的な回答は、昨年度72%、今年度70%で昨年より2ポイント減少している。

感染症予防対策のために、体育の学習等も様々な制限の中ではあるが、水泳学習や持久走など実施することができたことが、児童・保護者の肯定的な回答が増えた理由と考えられる。しかし、例年通りの授業や体力作りが年間を通してできていない。たくさんの児童が休み時間に元気に遊んでいるが、より多くの児童が体を動かせるような取組や工夫に関しても展開することはできなかった。十分な距離を取る中でマスクを外しての体育授業を行っているが、マスクを外さない児童が多いことも今後の課題である。感染症予防対策をとり、児童の安全を優先しながらも、体育の授業研究を重ね、より充実した指導を図るとともに、休み時間により多くの児童が体を動かせるような取組も計画していかなければならない。

今年度の学校評価アンケート結果は、総じて肯定的な評価が減少している。また、児童と保護者・教職員の肯定的な回答が相反している項目があることも気になる。学校としても、3年間の感染症対策の制約の中での学校生活の影響を危惧している。また、新型コロナウイルス感染症が5類になることで、制約が解除されコロナ前の学校生活に戻していくためには、新たにスタートする・作っていくという意識をもち準備していく必要がある。このアンケートの結果を真摯に受け止め、教職員一同で共有し、今後の学校運営にいかしていきたい。そして、本校児童の健全な育成に向け、常に向上心をもって取組を進めていきたい。